

中学校 第9学年 家庭科
「生活と環境の関わり」

SDGsとの関わり



1 単元のねらい

- (1) 資料及び今までの学習内容を踏まえ自分の生活を顧みることができる。
- (2) 生活の中の課題を見付け、その改善策を考えることができる。

2 単元の評価規準

知識・技能

- (1) 食・衣・住・消費生活を取り巻く様々な問題について理解している。
- (2) 資料やこれまでの学習内容を活用し、自身の生活の課題を見いだす、解決策を考えることができる。

思考・判断・表現

- (1) 各分野の学習内容と環境との関わりを適切に捉えることができる。
- (2) 生活の課題の原因と解決策を考察し、適切に表現できる。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 自分の生活を取り巻く様々な課題について考察し、その解決策を実践しようとしている。

3 環境教育の視点（単元を通して身に付けさせたい資質・能力・態度）

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】		・学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。
T H I N K	【環境に対する見方・考え方】	【環境に対する思考・判断・表現】	・環境問題とその原因を自分の生活と結び付け課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。
		【問題解決に必要な技能】	・自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。
		【環境に対する知識・理解】	・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。
A C T	【環境に働きかける実践力】		・発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。

4 環境を捉える視点

循環	有限性
<p>現在、大量生産・大量流通・大量消費・大量廃棄の時代と言われており、限りある資源を活用し、循環させることで環境負荷を減らすことで持続可能な社会のめざすことが大切である。そうした社会の形成者として自立していくための倫理観、思考・判断力、行動力を育む。</p>	<p>化石燃料など有限の資源がどのような形で消費され、自分たちの生活のどのような場面でその恩恵を受けているのかを知ることで、それらを未来へ残すことの大切さを学ぶ。また、それらを消費することは環境にどのような影響を与えるのかについても学ぶことで資源の有限性について多角的に学びを深める。</p>

5 指導計画【全5時間】

時	○学習内容 ・学習活動 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】
	環境を捉える視点：循環・有限性	
F E E L	<p>① ○よりよい食生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの食生活を取り巻く様々な問題とそれを計る指標や取り組みについて理解し、環境問題について関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>② ○よりよい衣生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服も限りある資源から作られていることや手入れと環境の関わりなどを理解する。 ・一般的な3Rに加え、ファッションにおける3Rなどについて理解し衣生活と環境の関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>③ ○よりよい住生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適に住まうための工夫について理解し、住生活と環境に関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">F E E L</p>	<p>④ ○よりよい消費生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚をもち、自身の消費行動と環境との関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">T H I N K ・ A C T</p>	<p>⑤ 本時</p> <p style="text-align: center; background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px;">環境を捉える視点：循環・有限性</p> <p>○持続可能な社会を目指そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。 ・持続可能な社会について理解する。 ・発見した課題の解決策を考え、自分達のこれからの生活の具体的な行動目標と行動計画を立てる。 	<p>□【環境に対する思考・判断・表現】 環境問題とその原因を自分の生活と結びつけ課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（2）（観察、ワークシート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆知識・技能（2）（ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1）</p>

6 「生活と環境の関わり」実践本時案（5/5）

(1) 本時の目標

これまでに学習した食・衣・住・消費分野それぞれが抱える問題や取り組みなどを基に、自分の生活を振り返ることで課題を見だし、それに対する解決策や行動目標、行動計画を考えることで積極的に環境問題へ取り組む態度を身に付ける。

(2) 本時の展開

時	○学習内容・学習活動 ※予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価基準（評価方法） □【環境教育の視点】
10分	<p>○班に分かれ、担当の分野の今までの学習で環境に関わる部分の内容を確認する。</p> <p>○本時までの学習の中で環境に関わる内容にはどのようなものがあったか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードをワークシートに記入する。 <p>○本時の到達目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにねらいを記入する。 	<p>◇ワークシートを配付する。</p> <p>◇食・衣・住・消費生活分野の内容の中で環境に関わる部分を確認し、生活と環境が深く関わっていることに気付かせる。</p> <p>《未来へ3 P4, 5, 7》</p>	
<p>【ねらい】持続可能な社会を目指し、自分の生活で見直す点を記述し、発表しよう。</p>			
30分	<p>○持続可能な社会について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドで内容を確認しながら持続可能な社会に向けた取り組みをワークシートに記入する。 ①低炭素社会 ②自然共生社会 ③循環型社会 <p>○学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれ、冒頭で確認した既習内容を基に自分達の生活を振り返り、担当分野の課題をワークシートに書き出す。 <p>○発見した課題を改善するための方策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見した課題に対して自分達が実践することができる解決策を考え、まとめる。（ワークシート） <p>○課題と解決策の共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の課題と解決策の発表を行う。 ・各分野の発表に対して、自分の考えをまとめる。 	<p>◇持続可能な社会をなぜめざすのか確認した上で実現に向けた取り組みについて説明を行う。《未来へ3 p16》</p> <p>◇未来へ3や資料、教科書を参考に自分の生活の振り返りや解決策等を考えるよう促す。</p>	<p>◆知識・技能（2） 自身の生活から適切に課題を見出すことができている。（ワークシート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1） 環境について考え、自身の行動を改善しようと意欲的に考えている。</p> <p>□【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p>

10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ・振り返り ・全体でまとめを確認する。 		
	【まとめ】生活を見直せば、環境のためにできることがたくさんある。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習をもとに、今後、持続可能な自分の具体的な行動目標を考える ・環境についての学習を終えての自己評価を行う。 		

生活と環境の関わり

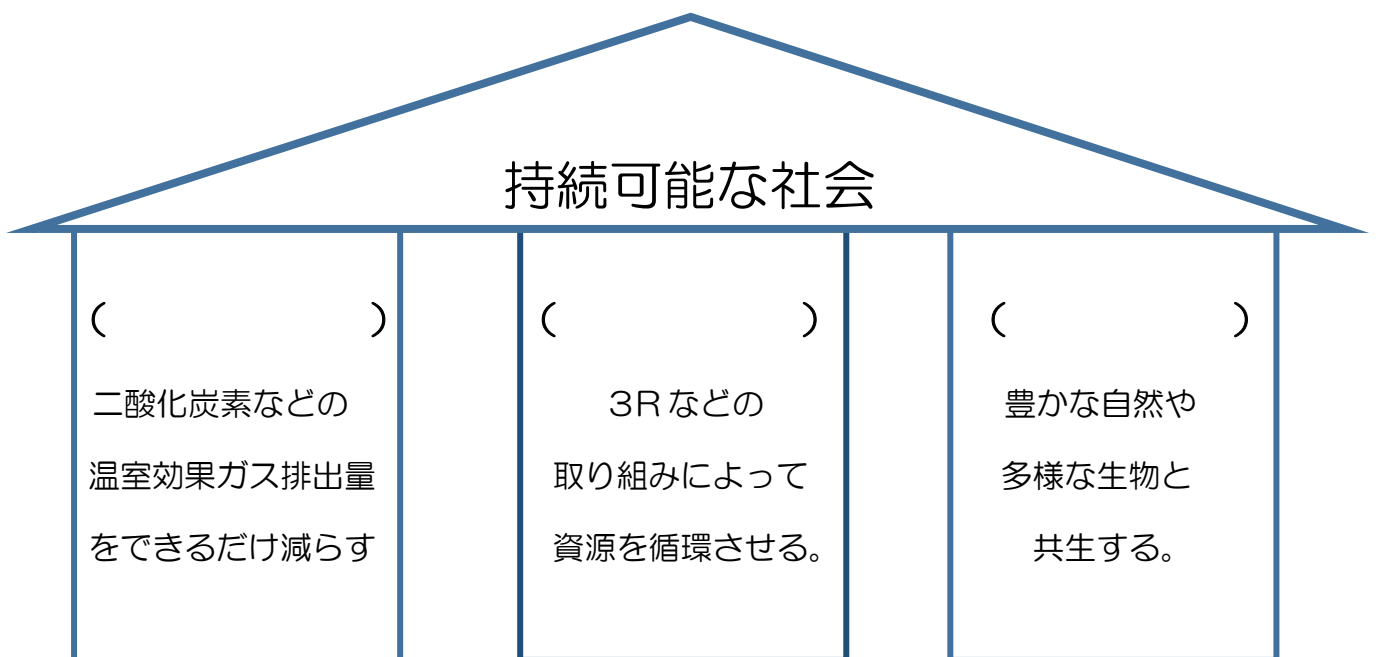
年 組 番 氏名 _____

ねらい： _____ の実現のために _____ を考えよう！

① 今までの学習の中で環境に関わる部分を振り返ってみましょう。

<食生活キーワード>
<衣生活キーワード>
<住・消費生活キーワード>

② 持続可能な社会に向けた取り組み



これらを消費者として心がけること＝ () ことになる。

③ 生活を振り返ろう

年 組 番 氏名

() 生活分野

<課題>
<解決策>

*発表を聴き、各班の課題と解決策、それに対する自分の考えをまとめましょう。

<食生活 課題>	<解決策>	<自分の考え>
<衣生活 課題>	<解決策>	<自分の考え>
<住・消費生活 課題>	<解決策>	<自分の考え>

④ 今日から取り組む行動目標を立てよう！



<自己評価>

- 持続可能な社会とはどのようなものか理解することができた (A・B・C)
- 生活と環境の関わりについて、考えることができた (A・B・C)
- グリーンコンシューマーとして環境について考えた行動をとるようにしたい (A・B・C)

<本時の学習のまとめ> *感じたこと、具体的にどう活かしていくかなども書きましょう。

小学校 第6学年 理科・総合的な学習の時間
「自然災害と共に生きる私たち」

SDGsとの関わり



1 単元のねらい

日本における様々な自然災害について理解し、防災への意識を高めるとともに、災害による被害を抑える方法についてICT等を活用して調べ、発表し合う中で自分なりの考えをもち、主体的に問題解決しようとする態度を育てる。

2 単元の評価規準

知識・技能

- (1) 日本で過去に発生した様々な自然災害について、その仕組みやそれに対する防災の取組について理解している。
- (2) 防災のために自分自身にできることは何か理解している。

思考・判断・表現

- (1) 災害と防災について、他の教科等で学習したことと関連付けて考え、ICT等を活用して情報収集をし、分かりやすく表現している。
- (2) 防災のために自分自身にできることは何か考え、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 日本で起こる自然災害について興味・関心をもって調べ、自分から意欲的に課題解決しようとしている。
- (2) 防災のために自分自身ができることを実践しようとしている。

3 環境教育の視点（単元を通して身に付けさせたい資質・能力・態度）

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】	・地球上で発生している自然災害について自分の生活と関連付けて捉え、興味・関心をもって関わるができる。
T H I N K	【環境に対する思考・判断・表現】	・地震や火山などの様々な自然災害により年々多くの人的被害や経済的被害が生じていることを認識し、問題として捉えている。
	【問題解決に必要な技能】	・目的を明確にし、ICT等を活用して、世界で起きている自然災害について情報を収集し、自分の考えを筋道立てて表現している。
	【環境に対する知識・理解】	・世界中で発生している自然災害による被害や災害への対策について理解している。
A C T	【環境に働きかける実践力】	・自らも「未来に持続する社会」の一員であることを認識し、世界の災害について捉え直すとともに、自身の住む町について考えたり自身の防災に努めている。

4 環境を捉える視点

共生	保全
広義の共生という観点で、共に地球で生きる人間同士が協力していくべきであり、また自然災害とも共に生きていくべきである。	不可避の自然災害に対し、手を加えないのでも人間の手で押さえ込むのでもなく、人間が持続して生活できるように管理することが必要である。

5 指導計画【全9時間】内理科「変わり続ける大地」4時間

時	○学習内容 ・ 学習活動 <未来へ>	◆評価規準 (評価方法) □【環境教育の視点】	
環境を捉える視点：保全			
FEEL	理科 ① ②	<p>○世界と日本の火山と主な地震が起きた場所の図を見て、地震や火山の噴火について問題を見いだす。</p> <p>○地震や火山の噴火による大地の変化の様子について調べる。</p> <p>○地震と火山による大地の変化についてまとめる。</p> <p>○火山の恵みについて捉える。</p>	<p>◆知識・技能 土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。(観察、ノート)</p> <p>◆思考・判断・表現 土地の変化について予想や仮説を基に問題解決している。(観察、ノート)</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度 土地の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。(観察、ノート)</p>
	総合 ①	<p>○日本で過去に発生した自然災害について知る。<未来へ② 14></p> <p>・地震、津波、火山の噴火、大雨、洪水土砂崩れ、猛暑、豪雪などについて知る。</p>	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 地球上で発生している自然災害について、他人事としてではなく自分にも起こりうるものとして捉えている。</p> <p>□【環境対する思考・判断・表現】 様々な自然災害により人的被害や経済的被害が出ていることを問題として認識している。</p>
環境を捉える視点：共生			
THINK	総合 ② ③ ④	<p>○グループごとに、日本で発生した地震や火山、津波などの自然災害について、その原因や被害について調べる（日本だけでなく世界の災害でもよい）。</p> <p>○被害を減らすためにされていることについて、「被害を減らすための取り組み（減災）」や「被災後の支援」、「個人でできる防災」について調べる。</p> <p>○調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめ、発表の原稿を作る。</p>	<p>◆知識・理解① (観察、ノート)</p> <p>◆思考・判断・表現① (観察、ノート)</p> <p>◆主体的に取り組む態度① (観察、ノート)</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 目的を明確にし、ICTを活用して災害について情報を収集し、自分の考えを表現している。</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 世界中で発生している災害について、その原因やそれに対する対策・支援について理解している。</p>
	総合 ⑤ (本時)	<p>○グループ同士でお互いに発表し合い、質問を受けてプレゼンテーションソフトを修正する。</p> <p>○互いの発表に前時までの観点が含まれているか確かめあう。</p>	<p>◆主体的に取り組む態度① (観察、ノート)</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 目的を明確にし、ICTを活用して災害について、情報を収集し、自分の考えを表現している。</p>

A C T	理科 ③	○調べたことをグループごとに発表し、災害から身を守るために自分に出来る事を考える。	◆知識・理解②（観察、ノート） ◆思考・判断・表現②（観察、ノート） ◆主体的に取り組む態度②（観察、ノート）
	④	○自然災害と防災についてまとめる	□【環境に働きかける実践力】 自らも「未来に持続する社会」の一員であることを認識し、世界の災害などについて捉え直すとともに、自身にできる防災に努めている。

6 「災害と共に生きる私たち」実践本時案（7／9時）

（1） 本時の目標

グループ同士で発表し合うことで、適切に調べて分かりやすくまとめることができているか確かめ、発表の準備をする。

（2） 本時の展開

時	○学習内容・学習活動 ※予想される児童の反応	◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】（見取り）
5分	○前時までの活動を振り返る。 ○本時のめあてを提示する。	◇自然災害について振り返る。	
めあて：グループ同士で発表し合い、発表に向けての準備をしよう			
10分	○ペア・グループ同士で発表し合う。 ・聞く側は、以下の点が含まれているか確かめる。（①～③は必須項目とする。） ①その災害がいつ、どこで起こった災害なのか。 ②災害の内容や、被害状況について。 ③その災害に備えるために自分たちに出来る事は何か。 ④その後被害を減らすためにどのような取り組みがなされているか。 ⑤被災後の支援にはどのようなものがあったか。 ・発表に対しての質問や、他にこのようなことを説明したらよいか、互いに助言し合う。	◇聞く側は、発表の間は聞くことに集中させ、全ての説明や提案が終わってから質問するように指導する。 ◇発表時間は各班2～3分以内とすることを改めて伝える。 ◇自然災害に関する資料や発表内容、構成について、児童に考えさせるようにする。	◆主体的に学習に取り組む態度① 自分の発表だけでなく他のグループの発表を真剣に聞き、協力して問題解決しようとしている。（観察・発言）
20分	○相手からの質問や助言を基に、プレゼンテーションソフトの資料を修正する。 ・追加の情報を調べ、プレゼンテーションソフトで資料にまとめる。 ・自然災害について、相手により分かりやすい資料となるように修正する。	◇プレゼンテーションソフトの作成の様子に応じて、適宜、指導・助言を行う。	□【問題解決に必要な技能】 目的を明確にしてICTを活用して情報収集し、発表をまとめているか。（観察・発言）
5分	○次回の活動について伝える。 ○振り返りを書く。 ・振り返りの視点：お互いに発表し合って理解が深まったか	◇振り返りの視点を、児童に伝える。	◆主体的に学習に取り組む態度①・② 積極的に問題解決をし、防災について自分の考えを深めているか。（ノート）

<感受期(前期)> 実践事例 未来へ1 ①
 幼稚園 4・5歳児合同
 「秋を 自然を 楽しもう」(壁飾り作り)

SDGsとの関わり



1 ねらい

- (1) 園庭や、近くの公園で、落ち葉や木の実等を拾い集めたり、遊びに使ったりすることを通して、身近な秋の自然に関心をもつ。
- (2) 落ち葉や木の実等の色や形から、自分なりのイメージを膨らませて、作品を作ることを楽しむ。

2 評価規準

知識・技能

- (1) 落ち葉や木の実等に興味・関心をもち、発見したり、色・形・大きさの違いに気付いたりすることができる。
- (2) 身近な自然や季節の移り変わりを感じ、自然の不思議さや面白さに気付くことができる。

思考・判断・表現

- (1) 落ち葉や木の実等を使って、自分なりに遊びや製作に、取り入れることができる。
- (2) 自分の作品について、自分の考えや、教師・友達に、頑張ったこと等を伝えることができる。(製作時)

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 秋の自然に興味・関心をもち、自分から関わるができる。
- (2) 良い作品にしたいという意欲をもって、製作に取り組むことができる。(製作時)

3 環境教育の視点(身に付けさせたい資質・能力・態度)

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】		①秋の自然に興味・関心をもち、自分から進んで落ち葉や木の実を集めたり、新しい発見をしたりしようとする。 ②身の回りの自然の素晴らしさや不思議さを実感する。
T H I N K	【環境に対する見方・考え方】	【環境に対する思考・判断・表現】	・落ち葉や木の実等を遊びに取り入れたり、製作したりすることを楽しむ。 ・身近な自然を大切にする気持ちをもつ。
		【問題解決に必要な技能】	・秋の自然を感じたり、気付いたりしたことを基に、自分たちの生活を工夫する。
		【環境に対する知識・理解】	・身近な自然や季節の移り変わりを感じ、自然の不思議さや面白さに気付く。 ・気付いたことや感じたことを話したり、表現したりする。
A C T	【環境に働きかける実践力】		・身の回りにある自然に関わり、自然の大切さや親しみをもって生活する。

4 環境を捉える視点

共生

落ち葉や木の実を集めて遊ぶ中で、それを取り巻く環境(動物、木、土)の存在を知り、さらに興味・関心をもって関わろうとする。

5 指導計画【2週間程度】

	予想される幼児の活動	□【環境教育の視点】
	環境を捉える視点：共生	
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> ○園庭や近くの公園で、落ち葉や木の実等を集める。 ○集めた落ち葉や木の実等を幼稚園に持ってくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・拾った場所や数について、教師や友達に伝えようとする。 ・落ち葉や木の実等の色・形・大きさの違いに気付き、友達同士で話し合う。 ○さらに様々な所へ行き、落ち葉や木の実等を集める。(各家庭) <ul style="list-style-type: none"> ・種類ごとに分けて集めようとする。 ○出掛けた先や、家の周り、通園時の道等で、秋の自然のことを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> □【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 園庭や近くの公園に、落ち葉や木の実が落ちていることに気付き、自分から興味・関心をもって集めようとする。 □【環境に対する知識・理解】 落ち葉や木の実を見たり、触ったりして、自分なりに気付いたことや考えたことを、教師や友達に伝えようとする。
T H I N K ・ A C T	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた落ち葉や木の実等を、遊びの中に取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリをカップや袋に入れたり、出したりする。(4歳児) ・ドングリをケーキやクッキーのトッピングとして使う。(5歳児) ・ドングリを使って携帯電話や車を作る。(5歳児) ・ドングリ UFO キャッチャーや、ドングリ転がし等のゲームを作る。(4・5歳児) ・ドングリや柿を使って、砂場レストランで遊ぶ。(4・5歳児) ・落ち葉プールをする。(4・5歳児) ○学級全体活動の中で、秋の製作をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙でマブリングをし、トンボを作る。(5歳児) ・折り紙や絵の具、画用紙等を使って、ドングリや落ち葉を作る。(4歳児) ○学級全体の活動の中で、集めた落ち葉や木の実等を使って、製作をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋の壁飾り作りをする。(4・5歳児) ○身の回りの自然にさらに関心を持ち、自分から関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □【環境に対する思考・判断・表現】 落ち葉や木の実を、好きな遊びの中に取り入れようとする。 □【問題解決に必要な技能】 作りたい物や、やりたいことをイメージし、それに合った落ち葉や木の実等を選ぶことができる。 □【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 秋に関する製作を通して、身の回りの自然の素晴らしさや不思議さに気付く。 □【環境に対する思考・判断・表現】 落ち葉や木の実等をよく見て、自分なりに並べたり、組み合わせたりして、製作をしようとする。 □【環境に働きかける実践力】 ・身の回りの自然にさらに関心を持ち、親しみをもって接しようとする。

6 「秋の自然物に興味・関心をもつ(壁飾り作り)」実践本時案

(1) 本時の目標

今までに集めた落ち葉や木の実等を使って、自分なりの壁飾り作りをすることを楽しみ、また、友達の子どもの良さに気づき、伝えようとする。

(2) 本時の展開

時	○学習内容・学習活動 ※予想される幼児の反応	◇指導上の留意点 T1= 4歳児担任 T2= 5歳児担任	□【環境教育の視点】
5分	<p>○これまでに集めた落ち葉や木の実のことを振り返る。</p> <p>※自分が集めてきた落ち葉や木の実等のことや遊びに使ってきたことを思い出し、教師や友達に伝えようとする。</p> <p>※自分が知っていること(木の実の種類や、落ちていた場所等)を、教師や友達に伝えようとする。</p> <p>○教師の話聞き、本時の活動内容を知る。</p>	<p>◇幼児の気づきや発見、喜び等を認め、共感的に受け止める。</p> <p>◇自分の知っていることを伝えようとする姿を認める。</p> <p>◇木工用接着剤を出す量は、幼児がイメージしやすいように、「アリ・ダンゴムシほどの大きさ」等、身近な生物に例えて幼児に伝える。</p> <p>◇作品見本を一度見せ、作り方を理解したうえで、幼児が自分のイメージを大切に製作に臨めるように、出したままにせず、場の後ろ側に置いておく。</p>	<p>□【環境教育の視点】</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 気付いたことや感じたことを話したり、表現したりできる。</p>
<p>【ねらい】 集めた落ち葉や木の実等を使って、自分なりの壁飾りを作る楽しさを味わう。</p>			
30分	<p>○秋の壁飾り作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな色の段ボール板を選ぶ。 ・好きな木の実を手にとって選び、段ボール板に貼り付ける。 <p>※あらかじめ作りたい形を考えてから、取り組む幼児もいれば、段ボール板に並べているうちに、作りたいイメージがもてる幼児もいる。</p> <p>※友達の作っている様子を見て、認める言葉掛けをしたり、アイデアを共有したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚作り終わったら、乾かす用の机に並べる。 	<p>◇場所が遠く、落ち葉や木の実等を取りづらそうにしていたり、接着剤のフタが開かず困っていたりする幼児の手助けをする。(T2)</p> <p>◇イメージがわからなかったり、何をしたらよいか分からなかったりする幼児には、見本の写真を見せたり、イメージを聞き取ったり、一緒に考えたりする。(T1、T2)</p> <p>◇できあがった作品を具体的に褒め、称賛する。(T1、T2)</p>	<p>【問題解決に必要な技能】 素材の形や色を生かすため、素材をよく観察している。</p>

	<p>※壁飾りをもう1枚作りたいという幼児がいる。</p> <p>・2枚目の段ボール板を選ぶ。</p>	<p>◇作り終えた幼児は、さらに「プレゼント用の飾り」を作ってよいことを伝える。</p>	
5分	<p>○各自、自分や友達を作ったものを見て、作品の出来栄を確認する。</p> <p>※友達の作品の良いところを言葉にして認める。</p> <p>※自分の作品と見比べて、互いの良さを言葉にする。</p> <p>○自分や友達の作品に、どんな自然の素材をどのように使ったのかを伝え合う。</p>	<p>◇自分や友達の良いところを言葉にして伝えようとする姿を認め、学級全体にも広める。</p> <p>◇幼児の言葉に共感し、工夫を受け止め、次への意欲を高める。</p> <p>◇接着剤が乾いたら、段ボールをヒモで繋げ、飾ることを伝える。</p>	<p>□【環境に対する思考・判断・表現】</p> <p>自然素材を使った自分の作品の良さや、頑張ったことを、教師や友達に伝えようとする。また、友達の作品の良さにも気づき、自然の豊かさに気付く。</p>

＜認識・問題把握期＞ 実践事例 未来へ2 ③
 小学校 第5学年 社会科
 「わたしたちの生活と森林」

SDGs との関わり



1 小単元のねらい

我が国の森林資源の分布や働きなどに着目して、各種資料を活用して調べ、まとめ、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。

自分の立場でできることを選択・判断することを通して、国土の環境保全について考えようとする態度を養う。

2 小単元の評価規準

知識・技能

- (1) 森林の広がり、森林資源がもつ多様な機能、森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力などについて地図帳や各種の資料を活用して調べ、国土の環境について理解している。
- (2) 調べたことを図や文にまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全などに重要な役割を果たしていることを理解している。

思考・判断・表現

- (1) 森林資源の分布や働きなどに着目して問いを見だし、国土の環境について考え、表現している。
- (2) 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林と国土保全や国民生活を関連付けて考え表現している。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 我が国の森林について、予想や学習計画をたて、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を解決しようとしている。
- (2) 森林の保護や育成の課題に気づき、今後、森林を守り続けていくために自分はどうに関わるのかを考えていこうとしている。

3 環境教育の視点

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】	・森林の保護や育成の課題に気づき、今後、森林を守り続けていくことの大切さを考えようとしている。
T H I N K	【環境に対する思考・判断・表現】	・森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林と国土保全や国民生活を関連付けて考え表現している。
	【問題解決に必要な技能】	・森林の広がり、森林資源がもつ多様な機能、森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力などについて地図帳や各種の資料を活用して調べている。
	【環境に対する知識・技能】	・森林の広がり、森林資源がもつ多様な機能、森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力などについて理解している。
A C T	【環境に働きかける実践力】	・森林の保護や育成の課題に気づき、今後、森林を守り続けていくために自分はどうに関わるのかを考えていこうとしている。

4 環境を捉える視点

循環	保全
環境の中で、空気や水が循環しており、森林はその循環の中で重要な働きをしている。森林が失われるとこの循環が乱れることを認識する必要がある。	森林は、国民生活や産業にとって重要な働きをしているため、行政や企業だけでなく、国民一人ひとりも保全に関心をもつ必要がある。

5 指導計画【全7時間】「私たちの生活と森林」

	時	◎問いやめあて ○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準（評価方法） 【環境教育の視点】
F E E L	①	◎森林にはどのような働きがあるのだろうか。 ○森林の機能を調べる。 ・緑のダムの働きや生物の生活の場所になる。 ○森林がなくなったら、自分たちの生活でどのような困ったことがおきるか考え、話し合う。	【環境に対する知識・技能】 森林資源がもつ多様な機能 ◆知識・技能（1）（ノート）
	②	◎森林の現状を調べ、学習問題をつくろう。 ○手入れが行き届かない森林が増えている現状や、林業家が減少していることを調べる。 ○森林保護の課題解決に向けて、だれがどのようなことをしているのか予想を出し合い学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習問題 森林を守るために、だれがどのような取組を行っているのだろうか</div> ○予想を整理して学習計画をたてる。	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 森林の保護や育成の課題に対する気付き ◆思考・判断・表現（1）（ノート） ◆主体的に学ぶ態度（1）（ノート）
T H I N K	③	◎林業家は、どのような取組を行っているのだろうか。 ○資料を基に、林業家の取組を調べる。 ・林業家は、枝打ちや間伐などして森林を手入れしている。	◆知識・技能（1）（ノート） 【環境に対する知識・技能】 森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力
	④	◎国や東京都はどのような取組を行っているのだろうか。 ○資料を基に、行政の取組を調べる。 ・東京都は多摩産材の生産を増やそうとしている。	◆知識・技能（1）（ノート） 【環境に対する知識・技能】 森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力
	⑤	◎企業や市民団体はどのような取組をしているのだろうか。 ○企業や市民団体が、行政と連携して環境保全を行っている様子を調べる。 ・企業や市民団体は、国産木材の消費が増えるような取組を行っている。	◆知識・技能（1）（ノート） 【環境に対する知識・技能】 森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力
	⑥	◎学習したことを整理して、学習問題についての考えをまとめよう。 ○学習した内容を関係図にまとめる。 ・森林を守るために、林業家、国や都、企業や市民団体が協力している。 ○関係図を基に、学習問題に対する考えをまとめる。	◆知識・技能（2）（ノート） ◆思考・判断・表現（2）（ノート） 【環境に対する思考・判断・表現】 森林と国民生活の関連付け
A C T	⑦	◎森林を守るために、自分たちはどのようなことができるだろう。 ・できるだけ国産木材を使いたい。 ・国産木材を使うことの大切さや森林の課題を家族に伝えたい。 ・緑の募金に協力したい。	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 【環境に働きかける実践力】 ◆主体的に学習する態度（2）（ノート）

6 本時の指導案（1／7時）

（1）本時の目標

資料を活用して森林のもつ多様な機能について調べ、自分たちの生活と森林のつながりを考えることを通して森林のもつ働きについて理解することができる。

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	※資料 ◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】
10分	○第5学年の社会科オリエンテーションの内容をふり返る。 ・今日からは森林の学習だ。 ○森林や山に行った経験を出し合う。 ・キャンプをした。 ・スキーをした。 ・釣りをした。	※オリエンテーションの板書 ※山の写真 ※森林体験のアンケート結果 ※森林の国土に占める割合 ◇自分の生活経験と結び付けるで、学習意欲が高まるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 森林にはどのような働きがあるのだろう。 </div>			
28分	○森林の働きについて予想する。 ・空気をきれいにする。 ・動物が住む場所になる。 ○資料を活用して森林の機能を調べる。 ・土砂崩れを防ぐ。 ・光合成して酸素をつくる。 ・人が安らぐ場所になる。 ・川の水をきれいにする。 ○もしも、森林が失われるとどのような困ったことが産業や私たちの生活にあるか考え、話し合う。 ・水が汚れてしまう。 ・木で物がつくれなくなる。 ・水が汚くなったら、お米を作る人おいしいお米がつかれない。 ・海の水が汚れるから漁師の人たちもこまる。 ○森林が失われた事例を調べ、森林がどのような立場の人にとって大切か考える。 ・森林は漁師の人や、農業をする人にとっても大切な働きをしている。	※森林があるとき、ないときの絵 ※森林の働きの文章資料（未来へ2P4を参考に作成） ※東京都周辺の地図 ◇森林が失われた場合私たちの生活や既習の産業にどのような影響があるか考えられるようにする。 ※既習の農家や水産業に関わる人の写真やイラスト ※森林が失われた事例（北海道襟裳岬）	【環境に対する知識・技能】 森林資源がもつ多様な機能 【環境に対する思考・判断・表現】 森林の働きと国民生活の関連 【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 森林の保護や育成の課題に対する気付き
7分	○本時の問いに対するまとめと振り返りを書く。 ・森林には、森林の近くに住む人だけでなく、私たちみんなにとって水をきれいにしたり、酸素をつくったりする大切な働きがある。 森林が漁師の人にまで影響があるとは思っていなかったからびっくりした。	◇振り返りの視点として、自分の考えの変化、これからの学習で調べたいことなどを書くことで、次の学習につながるようにする。	◆評森林資源がもつ多様な機能について各種の資料を活用して調べ、森林の働きについて理解している。（ノート）

中学校 第9学年 家庭科
「生活と環境の関わり」

SDGsとの関わり



1 単元のねらい

- (1) 資料及び今までの学習内容を踏まえ自分の生活を顧みることができる。
- (2) 生活の中の課題を見付け、その改善策を考えることができる。

2 単元の評価規準

知識・技能

- (1) 食・衣・住・消費生活を取り巻く様々な問題について理解している。
- (2) 資料やこれまでの学習内容を活用し、自身の生活の課題を見いだす、解決策を考えることができる。

思考・判断・表現

- (1) 各分野の学習内容と環境との関わりを適切に捉えることができる。
- (2) 生活の課題の原因と解決策を考察し、適切に表現できる。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 自分の生活を取り巻く様々な課題について考察し、その解決策を実践しようとしている。

3 環境教育の視点（単元を通して身に付けさせたい資質・能力・態度）

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。
T H I N K	【環境に対する見方・考え方】	【環境に対する思考・判断・表現】	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題とその原因を自分の生活と結び付け課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。
		【問題解決に必要な技能】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。
		【環境に対する知識・理解】	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。
A C T	【環境に働きかける実践力】		<ul style="list-style-type: none"> ・発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。

4 環境を捉える視点

循環	有限性
<p>現在、大量生産・大量流通・大量消費・大量廃棄の時代と言われており、限りある資源を活用し、循環させることで環境負荷を減らすことで持続可能な社会のめざすことが大切である。そうした社会の形成者として自立していくための倫理観、思考・判断力、行動力を育む。</p>	<p>化石燃料など有限の資源がどのような形で消費され、自分たちの生活のどのような場面でその恩恵を受けているのかを知ること、それらを未来へ残すことの大切さを学ぶ。また、それらを消費することは環境にどのような影響を与えるのかについても学ぶことで資源の有限性について多角的に学びを深める。</p>

5 指導計画【全5時間】

時	○学習内容 ・学習活動 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】
	環境を捉える視点：循環・有限性	
F E E L	<p>① ○よりよい食生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの食生活を取り巻く様々な問題とそれを計る指標や取り組みについて理解し、環境問題について関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>② ○よりよい衣生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服も限りある資源から作られていることや手入れと環境の関わりなどを理解する。 ・一般的な3Rに加え、ファッションにおける3Rなどについて理解し衣生活と環境の関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>③ ○よりよい住生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適に住まうための工夫について理解し、住生活と環境に関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">F E E L</p>	<p>④ ○よりよい消費生活をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚をもち、自身の消費行動と環境との関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">T H I N K ・ A C T</p>	<p>⑤ 本時</p> <p style="text-align: center; background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px;">環境を捉える視点：循環・有限性</p> <p>○持続可能な社会を目指そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。 ・持続可能な社会について理解する。 ・発見した課題の解決策を考え、自分達のこれからの生活の具体的な行動目標と行動計画を立てる。 	<p>□【環境に対する思考・判断・表現】 環境問題とその原因を自分の生活と結びつけ課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（2）（観察、ワークシート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆知識・技能（2）（ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取り組みに関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1）</p>

6 「生活と環境の関わり」実践本時案（5/5）

(1) 本時の目標

これまでに学習した食・衣・住・消費分野それぞれが抱える問題や取り組みなどを基に、自分の生活を振り返ることで課題を見だし、それに対する解決策や行動目標、行動計画を考えることで積極的に環境問題へ取り組む態度を身に付ける。

(2) 本時の展開

時	○学習内容・学習活動 ※予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価基準（評価方法） □【環境教育の視点】
10分	<p>○班に分かれ、担当の分野の今までの学習で環境に関わる部分の内容を確認する。</p> <p>○本時までの学習の中で環境に関わる内容にはどのようなものがあったか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードをワークシートに記入する。 <p>○本時の到達目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにねらいを記入する。 	<p>◇ワークシートを配付する。</p> <p>◇食・衣・住・消費生活分野の内容の中で環境に関わる部分を確認し、生活と環境が深く関わっていることに気付かせる。</p> <p>《未来へ3 P4, 5, 7》</p>	
<p>【ねらい】持続可能な社会を目指し、自分の生活で見直す点を記述し、発表しよう。</p>			
30分	<p>○持続可能な社会について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドで内容を確認しながら持続可能な社会に向けた取り組みをワークシートに記入する。 ①低炭素社会 ②自然共生社会 ③循環型社会 <p>○学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれ、冒頭で確認した既習内容を基に自分達の生活を振り返り、担当分野の課題をワークシートに書き出す。 <p>○発見した課題を改善するための方策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見した課題に対して自分達が実践することができる解決策を考え、まとめる。（ワークシート） <p>○課題と解決策の共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の課題と解決策の発表を行う。 ・各分野の発表に対して、自分の考えをまとめる。 	<p>◇持続可能な社会をなぜめざすのか確認した上で実現に向けた取り組みについて説明を行う。《未来へ3 p16》</p> <p>◇未来へ3や資料、教科書を参考に自分の生活の振り返りや解決策等を考えるよう促す。</p>	<p>◆知識・技能（2） 自身の生活から適切に課題を見出すことができている。（ワークシート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1） 環境について考え、自身の行動を改善しようと意欲的に考えている。</p> <p>□【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p>

10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ・振り返り ・全体でまとめを確認する。 		
【まとめ】生活を見直せば、環境のためにできることがたくさんある。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習をもとに、今後、持続可能な自分の具体的な行動目標を考える ・環境についての学習を終えての自己評価を行う。 		

令和2年度 板橋区環境教育推進委員会（カリキュラム部会）委員名簿

担 当	所 属	職 名	氏 名	学年・担当教科等
部会長	上板橋第一中学校	校長	長岡 直行	
部 員	上板橋第一中学校	教諭	山田 祥吾	家庭科
	高島第一中学校	教諭	徳田 千了	理科
	下赤塚小学校	主幹教諭	桑島 孝博	5年 （社会科）
	緑小学校	教諭	小松 拓野	6年 （理科）
	新河岸幼稚園	教諭	阿部 菜々	4歳児担当（桃組）
事務局	板橋区教育委員会 板橋区教育委員会 板橋区教育委員会	指導室長 統括指導主事 指導主事	門野 吉保 山藤 知子 西山 英樹	